

総務文教委員会記録

令和6年10月11日（金）
9時30分～11時00分
全員協議会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員

【議長・委員外議員】 牛尾議員

【執行部】

（地域政策部） 田中地域政策部長

（まちづくり社会教育課） 河上副参事

【事務局】 松井書記

【議題】

1 執行部報告事項

(1) JR 西浜田駅簡易水洗トイレの設置状況について 【まちづくり社会教育課】

(2) 中山間地域をはじめとした島根の生活交通を考えるプロジェクトチームの
最終とりまとめについて 【まちづくり社会教育課】

(3) その他

2 【取組課題】 地域交通について（委員間で協議）

3 行政視察について（委員間で協議）

4 その他

- ・ 【要望書】 令和7年度理科教育設備整備等補助金予算計上についてのごお願い
(委員会に配付)

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 30 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進める。

1 執行部報告事項

(1) JR 西浜田駅簡易水洗トイレの設置状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課副参事

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

長浜まちづくりセンターの開所時間を確認したい。

○まちづくり社会教育課副参事

まちづくりセンターは、原則、月曜日から金曜日の9時から17時15分までとなっているが、朝8時半には職員が来ていると思う。土曜と日曜は原則閉館だが、夜も含めて土曜、日曜も誰かが利用していれば開いており、夜でも土曜、日曜でもトイレを使うことは可能だが、いつ開いているかは事前には分からない。

○岡本委員

通常は、駅という名が付いていればトイレはあるだろうという感覚がある。慣れてしまえば問題ないと思うので、日中は長浜まちづくりセンターのトイレが使えることを周知してもらいたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 中山間地域をはじめとした島根の生活交通を考えるプロジェクトチームの最終とりまとめについて

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課副参事

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○村武委員

このプロジェクトチームは1年前に県が設置し、6回の話合いの中で課題解決に向けた取組の方向性を出し、市町でできることを今後考えていくということだったが、県は、このプロジェクトチームの取りまとめを踏まえてどのようなことをやるか、今後出していくのか。

○まちづくり社会教育課副参事

県独自でも運転手確保に対する補助などを行っているので、市町と話し合いながら、それを今後良いものにしていくと思うが、今は取りまとめが終わった段階なので、具体的に県がこれをやるというものはまだ出ていない。

○沖田副委員長

県のプロジェクトチームの最終取りまとめに書いてあることはもっともだと思う。「地域の実情に応じた効率的・効果的な交通体系を構築する必要がある」と県も言い切っている。ただ、言うのは誰でもできる。それに伴って、市として、我がまちは中山間地が多いからこういう交通形態をしたい。それに予算が伴うのは当然である。そうなったときの支援を県はどうするのか。

○まちづくり社会教育課副参事

このプロジェクトチームで県に各市町の情報が入ったと思うので、今後は各市町への予算的な支援も考えてもらえると思うが、今日の時点で来年度はこうするといった具体的なことは聞いていない。プロジェクトチーム自体はこれで一旦終わりだが、県もこれを受けて各市町が今後いろいろな方向性を示した場合、それをまた集約して県全体で共有、協議の場を持つと言っていた。そういった中で市町の要望を聞きながら、県もできる限りのことを一緒にやってくれると思っている。

○沖田副委員長

そうなったときに、地域交通という一つの枠組みで各自治体も県も考えている中で、浜田市の場合は中山間地域の振興枠の予算で地域交通を動かしている。そうなったときの予算のすみ分けはどうかという気がする。やはり地域交通は地域交通として独立したもので話を進めていかないと、この枠組みの中で浜田市だけ色が微妙だと思うがどうか。

○まちづくり社会教育課副参事

委員の指摘を真摯に受け止め、今後また検討したい。申し訳ないが、今ここで即答はできかねる。

○沖田副委員長

進行を交代する。

○芦谷委員長

このことによって、浜田市として地域公共交通計画の見直しや、施策の変更などはあるか。

○まちづくり社会教育課副参事

地域公共交通計画は、令和6年に、そういったことも盛り込んで多方面にわたって

作っているので、計画自体を変更する予定は今のところないが、来年度に向けた予算要求などは、この取りまとめに沿った内容のものを要求できればと思っている。

○芦谷委員長

具体的には市内のどのような範囲で検討するのか。検討体制について伺う。

○まちづくり社会教育課副参事

現時点では、予算要求のことなので、部内でしっかり考えていきたい。

○沖田副委員長

進行を交代する。

○永見委員

今、浜田市では地域公共交通活性化協議会を開催しているが、それとの整合性はどのように考えているか。

○まちづくり社会教育課副参事

地域公共交通活性化協議会は年に3回程度行っている。また11月頃に開催する予定なので、県からこういった取りまとめがあったことを周知し、この中で浜田市としてどのような色が出せるか、情報共有や情報交換をしっかりしていきたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(3) その他

○芦谷委員長

そのほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは、ただいまの報告について、全員協議会に提出し説明すべきかどうかを決定するため、まず執行部の意向を確認したい。

○地域政策部長

全員協議会へ提出するものはない。

○芦谷委員長

全員協議会には提出しないとのことだが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように決定した。ここで執行部は退出されて構わない。

(執行部退席)

2 【取組課題】地域交通について（委員間で協議）

○芦谷委員長

委員にはまちづくりセンターへのヒアリングを経て、具体的な課題と提案を提出してもらったので、報告書に基づいて説明してもらいたい。

○村武委員

私はあいのりタクシーについて大きく課題があると感じたので、4点課題を上げた。まず1点目は、各まちづくり推進委員会によってあいのりタクシーの使い方がまちまちなので、その地域の交通課題に沿って実施できているのか疑問に感じた。まちづくり推進委員会で実施できることとできないことがあるのでまちまちになるのだと思うが、委員会ごとに違うことを課題に感じた。

2点目は、個人利用の場合は2名以上としているが、マッチングが難しいという声が多かった。個人利用をしていないまちづくり推進委員会もあるが、個人利用をしているところは、2名以上という条件が難しいことが課題だと感じた。

3点目は、2番目と被る部分があるが、個人利用を計画的に実施することがなかなか難しいので、個人利用に関しても考えていく必要があると感じた。

4点目は、まちづくり推進委員会であいのりタクシーを実施していく上で、そのたびごとに計画を出さないといけない。また、実施して補助金をもらうまでの申請や担当課とのやり取りの行程がかなり多いので事務負担が大きいことを課題として上げた。

解決手段としては、1番に関してはまちづくりセンターの事業としてあいのりタクシーを利用しているところもあるので、そこはまちづくり推進委員会が関与するのではなく、まちづくりセンターの予算として出せば良いのではないかと感じた。杵束まちづくりセンターでは、年間の計画を立ててカレンダーも作っていたので分かりやすかった。また、あいのりタクシーについてのセンター職員の理解度が低いところもあったので、センター職員もきちんと理解することが必要だと感じた。

まちづくりセンター以外のところで、住民が個人利用であいのりタクシーを利用したい場合ももちろんあるが、そこはまちづくり推進委員会で予算を付けて、委員会に任せるのが良いのではないかと思った。ただ、個人利用に関しては、チョイソコやライドシェアという仕組みをもう少し研究して利用できれば良いのではないかと感じた。

先ほど執行部から、県プロジェクトチームの報告があったが、その中に交通コンサルタントとして株式会社バイタルリードが入っている。そこはTAKUZOというシステムなども実施していて、島根県でも利用しているところがあるので、これも少し研究しても良いと思った。

○岡本委員

解決手段等についてはまだ自分の中で整理できていないので提案できないが、見つけた課題について話したい。私と永見委員は雲城、今市、木田、今福、三保の5つのまちづくりセンターを回った。その中で3点について報告する。

まず1点目のあいのりタクシー事業については、2人以上の他人との相乗り、いわゆるマッチングが難しいという話を聞いた。今市の場合、病院に通う患者と福祉施設の職員がペアで利用している状況で、そのほかは利用するのが難しいと聞いた。買い物は良いが通院目的の利用は、病院や時間の関係で難しいという話があった。三保は、大型の車両を使ってスーパーへの買い物ツアーをしているという報告があった。それ

から、事務作業が非常に煩雑であることから、私の行った先で地区サポーターの配置をしていないセンターから、ぜひ来年度は自分のところにも配置してほしいという話があった。立替え支払いについては、まちづくり総合交付金を使って地域割り等を使っているが、立替えが難しいので配慮してほしいという話があった。また、利用者1人でも2人分の料金を払えば使えるようにしてほしいという話もあった。広報、周知については、しっかりできているところもあるが大体はまだまだで、ケーブルテレビなどで紹介してほしいという要望もあった。利用者については、使ってみて良かったという人は繰り返し使っているが、その他ができないという話も聞いた。それから、あいのりタクシー事業を通していろいろな方が集まってくる、事業を通して住民同士の親睦が深まったので、この事業を利用して良かったという話を聞いた。

2番目に、地域交通について、5年先、10年先を見据えた検討をしてほしい、今はまだ大丈夫かもしれないが、その先が非常に不安だという話があった。旭、金城では、旭から石見交通の浜田行きの早朝便が出ているが、利用客がいっぱい、このことについて問題提起があった。それから、市街地に比べて中山間地域の方が、距離がある分だけ費用が掛かることに配慮してほしいとのことだった。それから、三隅で出た声だが、ひゃこるバスは朝夕の利用度は高いが日中は客が乗っていないことがあるので、今後のことを考えたら検討すべきではないかという提案を受けた。それから、バス代が高いことから、家族の自家用車を利用するという話もあった。それから、所管がまちづくり社会教育課から各支所が変わったようだが、変わったことによっていろいろな手続きが楽になったという話だった。

3点目の敬老福祉乗車券については、使えるのでうれしいという話、それから購入上限の20冊をもっと増やしてほしいという話が出た。

○永見委員

私は岡本委員と一緒に回り、そのあたりの内容は岡本委員が報告されたが、やはりペアリングが難しいという意見があったし、買い物と通院とのペアリングについても随分聞いたので、そこが大きな課題になることを改めて確認した。

それと、各まちづくりセンターやまちづくり推進委員会の、タクシー代の立替えのための負担が大きいという話も聞いたので、そのあたりの改善も必要だと思う。

全体を見ても、市の中心部から離れたところの人の利用が多いと感じた。私の身近なセンターでもかなり利用率が高いので、今後の予算の増額をという声をかなり聞いているし、私も同感である。

○西田委員

一つの課題としては、中山間地域枠の予算が令和7年度で終了することで、これは市も考えていると思うが、住民生活の現場をしっかりと把握しながら柔軟に対応していかななくてはならない、予算措置を継続していかななくてはならないと感じた。

それから、先ほどからずっと出ているが、2名以上のマッチングがなかなか難しいというところで、前もって予約していたが当日たまたま相手が来られなくなって困ったり、同乗する人の好き嫌いでマッチングが難しいといったいろいろな例を聞いた。

その課題解決手段としては、一人でも自由に乗れるような、ハードルを取り払うような柔軟な対応を考えてもらえればと思った。

それから、そもそも地域交通については、地域によって住民環境や利用目的が随分違うので、市にいろいろな制度があることは理解するが、今以上に地域性に寄り添った細かい制度設計、制度を統合するところは統合しながら、住民生活に沿った制度が必要ではないかと感じた。

全体としては、地域によっては利用者も運営する側のまちづくり推進委員会やまちづくりセンターも、人が入れ替わって動いているので、行政は距離が遠くならないように常に地域に寄り添う、より細かい姿勢が大事ではないかと思った。

それ以外にも細かいことを上げたら切りがないが、地域によって地理的な条件が皆違い、人口も違い、生活圏が違えば利用目的も違ってくる。通院や買い物が主なところもあれば、地域のサロンや観光に出かけるなど、いろいろな使い方をしているところもある。予算を積極的に使い切るところもあれば、できるだけ几帳面に予算を使うところもあり、地域によって温度差が随分あると感じた。事務作業については、この程度であればそれほど難しくないと言うまちづくりセンターもあれば、大変だと言うところもあった。

○沖田副委員長

あいのりタクシー事業についての課題と提案である。

まず1点目の課題は、1回当たりの利用者である。ヒアリングした15のまちづくりセンターの利用者数を利用回数で割ると、軽く3を超えている。その理由については、個別生活のライフラインを支える足ではなく、どちらかという買い物を絡めたお出掛けで利用しているケースが多いので、当然平均人数が高い傾向にあると思う。

というのが、次の課題だが、マッチングの利用が必須で、1人では利用できないとなると、通院などではおそらくほぼ利用できない制度になっている。これは問題である。

3点目は予算である。一つのまちづくり推進委員会につき上限80万円となっている。まちづくり推進委員会によっては人口規模が軽く千人を超えるところもあれば、数百人というところもあり、それが一律80万円となるとサービスのむらができる。これは予算としての課題である。

4点目は、運営主体がまちづくり推進委員会となっていることが課題だと思っている。私は、まちづくり活動と地域交通は別に考えるべきだと思っている。というのが、15のまちづくりセンターは今、まちづくり推進委員会の事務局を担っているが、それ以外は事務局を担っていないセンターも多々ある。そうなってくると、地域交通を考えたときに、受けられるサービスと受けられないサービスがある地区が出てくる。地域交通とは広く全市的に受けられるサービスだと思うので、これは大きな課題だと思っている。15センターを見ても、センターによって力量や人口規模の違いがある。そうしたときに、個別運行ができるまちづくりセンターがあれば、そうでない地域があり、制度にむらがあるというのは、まちづくり施策としては成功だろうが、地域交通

と考えたときには大きな課題だと思っている。

具体的な解決方法はなかなかないが、端的に言うと、1点目は、独立した部署と独立した予算で地域交通は行っていくべきだろうと思う。

2点目の解決策は、浜田市は、あいのりタクシー事業、予約型乗合タクシー、生活路線バスなど、いろいろな重複がある。予算の効率という観点から見るといかなものかという思いがあるので、重複した交通体系の整理が必要である。

3点目は、予約受付、運行計画、運行料金の取りまとめ等を、今のまちづくり推進委員会に全て投げるのではなく、民間活力を大いに使ってやっていくべきだろうということで、大きな柱として3点を上げた。

○芦谷委員長

私は、あいのりタクシーのヒアリングに行ったが、その前提は地域交通のあり方についてなので、全体を俯瞰して書いている。

ヒアリングには西田委員と一緒に行ったので西田委員の報告にもあったが、課題として、例えばあいのりタクシーの場合、事業が明確になっておらず、主体の位置付けやニーズの把握、必要とする人、その予備軍などの把握とマッチングが必要であること。課題の2点目は、まちづくり推進委員会がタクシーを借り上げ、買い物、通院支援などを行っているが、ほかも含め調査が必要である。というのも、波佐では、まちづくり推進委員会がタクシーを借りて運行していると聞いた。

改善策の1点目は、敬老福祉乗車券の交付枚数の2区域の分断が課題だと思っている。利用者負担の状況、事業所の収入、公費負担などを含めた交通課題を全体的に整理統合して、今後の改善策を立てることである。

2点目は、自治体版ライドシェア、ボランティア輸送などの先進例を参考に、浜田市版ライドシェアを構想することである。例として、ジャンボタクシーが必要な輸送はタクシー会社が担当する。

3点目は、それ以外の、1人から3人の少人数は、知っている人が知っている人を要件に応じて輸送する仕組みを作る浜田市版ライドシェア。これも利用者負担と運転者費用弁償の制度設計が必要である。

4点目は、生活路線バスは浜田地域の西のほうにある分の通勤、通学、通院、買い物などの内回り、外周り、8の字運行など、新たな発想での運行を検討してはという意見があったので書いている。

5点目は、介護保険デイサービスと買い物支援、その他生活用務、医療受診などを組み合わせる。市が行っている生活支援体制整備事業での検討も必要だと思っている。この所管は福祉環境委員会となる。

6点目は、中山間地域の人口減少が著しく、集落崩壊が目の前に迫っており、地域の産業を起こし、地域の元気のために地域産業が必要である。それを踏まえてUIターンや地域おこし協力隊、地域交通従事者、技能実習生などのその地域への定住を進める。そのための市としての独自策を作ることである。

7点目は、これらを推進するために現行の交通計画の見直しを行い、行政責任を明

確化することである。本庁の健康福祉部と市民生活部、支所、まちづくり推進委員会、社会福祉協議会、地区社協などの一体となった連携体制をつくる。

最後に、蛇足だが、市として協働のまちづくり、支え合い、助け合い、ボランティアなどが地域に根付くように力を入れる。まちづくり推進委員会にも言えるが、まだ地域には温度差があってなかなか地域で受け入れにくい。共同事業にしても支え合い、助け合い、ボランティアにしても、そのような感じを持った。以上である。

皆に説明してもらったが、各委員に対して何か聞いてみたいことがあればお願いします。

(「なし」という声あり)

では、これをベースに現状と課題、改善策なりを、提言、提案といった体系でまとめればと思う。まとめ方について何か思うところがあればお願いします。

ここで暫時休憩する。

[10 時 14 分 休憩]

[10 時 49 分 再開]

○芦谷委員長

委員会を再開する。

休憩前に引き続いての議題だが、各委員から、これまで議論したことへの自分の思いや、まとめるに当たっての方向性について一言ずつお願いします。

○永見委員

各地域に地域交通の内情をしっかりと説明して、地域の声を吸収して地域交通の改善という形に進んだほうが良い。全体の構想の中にそのあたりも含めた取組にしてもらえたらと思う。

○村武委員

今までヒアリングしたり皆の意見を聞く中で、やはり地域ごとにきちんと検討していくことが大切だと感じた。今後視察等に行くので、その後にまた委員会で議論したり、執行部の意見を聞いたりしてまとめると良いのではないかな。

○西田委員

過去の経緯を踏まえて現状の浜田市の地域交通があると思うので、現在の課題の解決手段はそれぞれあると思う。現在の制度の見直しは必要だと思う。ただ、地域交通全体についてもっとこうしたらと良いという提案をするとすれば、もう少しいろいろな勉強を重ね、先進地にも行って情報をもっと得てから提案に結び付けられたら良いと思う。

○岡本委員

このたびまちづくりセンターを訪問し、いろいろな課題があると思った。そういう課題の解決も必要だが、地域によっては5年先、10年先を見据えた政策をしてほしいという言葉もらったので、現状の施策について精査しながら、先進地も見ながら、

将来、共通して解決できるものもありそうなので、そういうことを先を見据えた政策という形で提言できれば良いと思う。

○沖田副委員長

地域の実情を踏まえた持続可能な交通体系ということが一つのワードになると思う。今日はある程度いろいろな意見交換もできたので、それらを踏まえて、正副委員長で何らかの素案のようなものを作って次に話を進めたほうが分かりやすいような印象を受けたかどうか。

○芦谷委員長

沖田副委員長の提案があった。まとめ方も先が良く見えないが、先進例も参考にしながら、できれば具体的に執行部の背中を押す、場合によっては予算に反映すべきものについては中間報告としてまとめる、そういったことも想定しながら正副委員長に一任いただき、案を作るということによろしいか。

(「異議なし」という声あり)

それでは以上で議題2を終わる。ここで暫時休憩する。

[10 時 54 分 休憩]

[10 時 57 分 再開]

3 行政視察について（委員間で協議）

○芦谷委員長

当委員会の取組課題「地域交通について」の参考にするため、先進自治体への行政視察について、正副委員長で行程の案を作成したので、副委員長が内容を説明する。

○沖田副委員長

10月24日の午後1時30分から3時まで、岡山県真庭市役所で「チョイソコマにわ」について視察する。日帰り、移動はジャンボタクシーで行う。執行部からも参加の希望があり、まちづくり社会教育課の公共交通係長と係員が視察に同席する。

○芦谷委員長

今の説明について委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

お諮りする。このような日程で行政視察を実施することとしてよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

それではこの内容で準備を進めていくので、ご協力をよろしくお願いする。

4 その他

- ・【要望書】令和7年度理科教育設備整備等補助金予算計上についてのお願い

(委員会に配付)

○芦谷委員長

要望書の提出が1件あった。申し合わせにより、要望書は、その写しを関係委員会

に配付するのみとなっているので、内容については各自確認をお願いします。

以上で総務文教委員会を終了する。

[11 時 00 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦谷英夫